

令和6年度 南魚沼市立大崎小学校 国際科学校評価

指導の重点

外国語による言語活動をととして、豊かな国際感覚やコミュニケーション能力、仲間を認め合う心を育てる。

1 自己評価 結果

	評価項目	評価基準	年間評価	評価対象
成果	(1)国際化の活動で、誰とでも楽しくコミュニケーション活動ができたか。	A：肯定的評価が80%以上	(1) A：93%	児童
	(2)国際科の学習で、外国と日本の文化や伝統の違いを感じ、そのよさが分かったか。	B：肯定的評価が60%以上	(2) A：93%	
	(3)国際化の授業を通して、英語や外国の文化に興味をもっている。		(3) B：76%	保護者
教育活動	(1)「聞く」「話す」活動の充実のために、アクティビティや学習形態を工夫する。 (2)外国の文化や伝統にふれ理解したり、日本の文化や伝統を英語で伝えたりする活動を行う。	A：実施した B：実施できなかった	(1) A (2) A	授業者
運営活動	(1)ALTとの授業打合せを丁寧に行い、コミュニケーションを図り、指導に生かす。 (2)国際大学の学生など、外国の人と交流する機会を設ける。	A：実施した B：実施できなかった	(1) A (2) A	授業者

<成果と今後の方針>

(1) 成果

- 低学年は単語やよく聞く言葉を用いてのゲーム、高学年は質問と答えを簡単な英文で話すといったやり取りなど、発達段階に応じて、英語を使つてのコミュニケーションを楽しんでいた。
- 国際大学の学生との交流会を2回実施した。児童は様々な国の文化や歴史にふれたことで、新たな気付きがあり、そこに興味をもったり、良さを感じたりしていた。

(2) 今後の方針

- 令和7年度からの市の方針をふまえ、ゴールの言語活動を重視した授業実践に取り組んでいく。そのために目的・場面・状況を工夫した単元構想を行う。また、「書く」ことの指導も重視した授業づくりを行う。
- 児童は国際大学の学生との交流を楽しんでいるため、出身国についての話を聞くだけでなく、引き続き学生との交流の時間の確保した交流会を計画していく。

2 学校関係者評価 ※評価委員：学校運営協議会委員7名

<学校運営協議会での意見・感想>

- 交際交流会は、外国籍の方とふれ合ったり、話したりできる良い機会である。家庭で同じようなことには取り組みづらいので、学校でのこの取組はありがたい。
- 国際交流会は英語圏の国に関わらず、様々な国の方とのかかわりがあるのでとても良い。また、児童は様々な方々とかかわりが特別なものではなく、日常になっている。
- 今後日本を飛び出せば、英語の必要性に気付くはずである。国際科を通して身に付けた「英語が相手に通じて楽しい」という経験は、更なる意欲アップにつながる。
- 保護者アンケートの結果が児童アンケートに比べ低評価になっているのは、学校での取組がしっかりと家庭に伝わっていないからではないか。学校ホームページで様子が公開されているので、そのことを今後広めていけるとよい。